

二分脊椎症患者におけるラテックス抗原と食物抗原の交叉性について

○田中和子\* 白形美知子\* 飯倉洋治\*\* 斉藤博久\* 赤澤 晃\*

(\*国立小児病院小児医療研究センター・アレルギー研究室\*\*昭和大医)

(目的)即時型天然ゴムアレルギーであるラテックスアレルギーの臨床報告の増加にともない、ラテックス抗原が食物抗原と交叉性をもつことが報告されるようになった。我々はラテックスおよび果物にアレルギー症状を呈する二分脊椎症患者血清を用いて、ラテックス、アボガド、クリ、キウイフルーツの交叉抗原性の検討を行った。

(方法) 患児は二分脊椎症で、V-P シャント、導尿を行っている 6 歳男児。ゴム手袋、点滴ルートの使用でアナフィラキシーの既往がある。またアボガドの摂取で口唇腫脹、浮腫の食物アレルギーがある。ラテックス、アボガド、クリ、キウイフルーツから抽出した抗原液を用い、交叉抗原性の存在を検討するために inhibition ELISA assay を、交叉抗原となる蛋白質の確認のため inhibition immunoblot をおこなった。

(結果) ラテックス抗原はアボガド、クリ抗原に対する IgE ELISA を 50%以上抑制した。アボガド、クリ抗原はアボガド、クリ、キウイフルーツ抗原を 50%以上抑制したが、ラテックス抗原に対しては 25%以下の抑制をしめした。キウイフルーツ抗原はラテックス、アボガド、クリ抗原に対し弱い inhibition をしめした。

(まとめ) ラテックスアレルギーのハイリスクグループである二分脊椎症患者においては、ラテックス抗原と食物抗原に交叉性が存在することが示唆された。